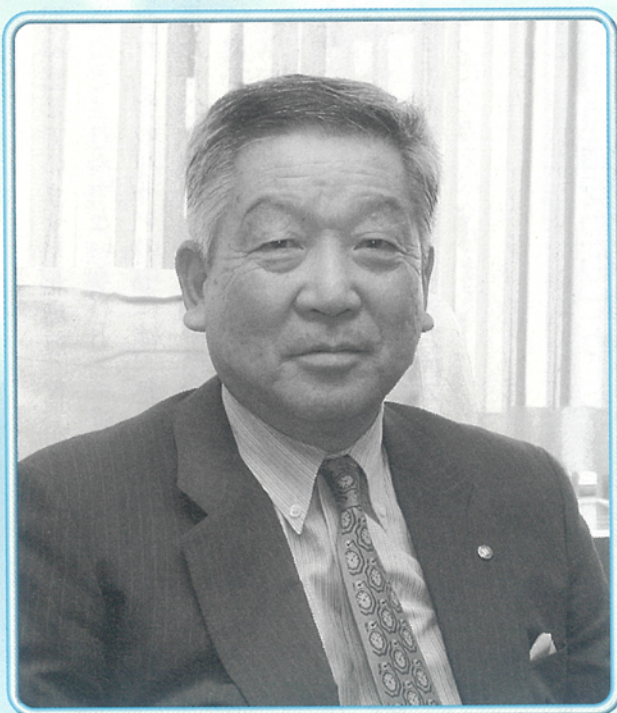


櫻庭会長インタビュー



櫻庭会長

今年6月の総会・理事会において、
櫻庭新会長が就任しました。
今回の海ひと夢は、
ぎよれん会長就任にあたって、
抱負などを伺いました。

次世代が夢を持てる 北海道水産業実現のため 全力を尽くします

北海道の水産業は、輸入水産物との競合もあり、魚価安という厳しい環境が続いてきました。近年は世界的な水産物の需給構造変化の中で、魚価回復の兆しがあります。漁業生産額も3年連続前年を上回るなど、明るさが見えつつあります。一方で漁獲量は、ここ数年減少していますし、漁業に従事している人は年々減少し、高齢化が進んでいます。そのため北海道漁業は、生産構造の脆弱化という構造的な課題を抱えています。



このような時代に、北海道水産界の舵取りを仰せつかりました。大変重い責任を痛

切に感じています。北島前会長から、「北海道ぎよれん」というバトンを渡されましたが、そのバトンの中には、北海道漁業が果たすべき役割と浜からの期待が詰まっています。その重いバトンを落とさないように、浜の皆さんと一緒にグラウンドに降りて走りたいのです。そして次の世代の人につかりとバトンを繋ぎたいと考えています。次の世代が夢を持てる北海道水産業実現のために全力を尽くします。

浜の魚価安定のため ぎよれんの役割は重要です

私はぎよれんの監事をやっていた頃に、全国にある支店、関連会社に行く機会が多くありました。そこで感じることは、浜のために、ぎよれんが果たす役割が大きいということでした。漁業者の生活の基本は水揚げです。いかにして魚を安定流通させるかは、ぎよれんに与えられた大きな課題です。世界的には水産物需要が高まっていますし、国内では食品・小売業界の流通再編に向けた動きや、消費者の安全・安心に対する関心が一層高まっています。加工・流通機能をより強化し、安定流通の実現という浜の皆さんの期待に応えていきたいですね。

漁家経営安定に向けた 取組みをさらに続けます

昨年は、過去に例のない低気圧被害を受け、漁港関連施設、漁船、定置網などに甚大な被害がありました。さらに燃油価格の高騰は、現在も漁業経営に大きな負担を強めています。今後とも行政、系統との連携をとりながら、的確に対応をしていきます。また、燃油価格対策を推進し、系統ブランド資材の充実に努め、漁業経営コストの削減にさらに努めます。漁家所得の安定を図るための漁業経営安定制度は、平成20年度に創設される見通しです。浜の皆さんにとって実効性のある制度の実現に向けて、さらに取組んでいきます。

水産物の貿易自由化問題への対応は、重要な課題です。中でもWTOの状況は、情報収集をさらに進めなければなりません。漁業生産基盤を守り、安全・安心な道産水産物の供給を確保するためには、浜の資源の持続的利用をはかる必要があります。水産資源の維持・管理、増大対策、漁業環境保全対策は、各浜にとって大切な取組みになっており、積極的に進めていきます。

浜の皆さんの期待に応える漁協づくりも極めて重要です。指導教育事業の積極的な

推進、漁協経営基盤強化のための経営合理化・機能の強化支援と漁協合併の推進にも力を入れていきます。

漁協系統は一丸となって 浜の課題に取組む 必要があります

職員の皆さんには、チャレンジとサービスという精神を忘れずに、業務を推進して欲しいと思っています。チャレンジとは「挑戦」ではなく、「何事にも取組む」ということで、サービスは「奉仕」ではなく「浜への対応、接し方」で、仕事に対する姿勢を言っています。

私は、漁協系統は一つという考え方です。浜の皆さんと同じだと思いますが、系統をそれぞれ分けて考えていません。つまり漁協系統は、一丸となって浜のさまざまな課題に取組むのが基本だと考えています。系統間の風通しを良くし、情報の交換もスムーズなのが理想です。また、浜の皆さんが、漁協系統の職員に期待することは大きいと思いますので、担当業務はもちろんです。事業の垣根を越えた仕事の出来る職員になって欲しいですね。

趣味では人とのコミュニケーション を大切にしています

「実践躬行」(じっせんきやうこう)という言葉を大切にしています。自ら身をもって、まず行動せよということです。理論や信条を自ら進んで行動にあらわしていくことです。仕事をする上で大切な信条となっています。

最近ではめっきり体を動かす機会は減りましたが、中学・高校と野球をやっていたこともあり、スポーツは好きです。ゴルフ、マージャンは昔からの趣味です。元来練習嫌いなこともあって、ゴルフもマージャンも、人との上手な付き合いのために出来ればという感じです。趣味はコミュニケーションの手段として楽しんでいます。

浜を良くするため 共にがんばりましょう

私のぎよれん会長としての抱負は、浜を良くするため共にがんばりましょうということに尽きます。私は、漁連の会長として出来ることを最大限努力します。系統としてやるべきこと、漁協としてやるべきこと、

浜の皆さんがやるべきことがあり、それぞれが努力することで、浜を取り巻く諸問題は解決できると信じています。浜の未来は自ら行動し働くことにより生まれてきます。まさに「実践躬行」の精神で、いっしょにがんばりましょう。



プロフィール

櫻庭 武弘 (さくらば たけひろ)

昭和16年北海道斜里郡斜里町出身。駒沢大学卒業後、2年間製鋼会社へ勤務。昭和41年に地元に戻り家業を継承。平成6年から斜里第一漁協代表理事組合長。平成10年からぎよれん監事(平成15年から代表監事)、平成16年からは全漁連代表理事副会長、道信漁連会長などの要職を歴任。斜里の自宅では奥様と二人住まい。食べ物の好き嫌いはなく、好物はカレーライス。